



「一枚の紙」の話から。

例年以上に暑い毎日が続く中、総合体育大会の前半二日間が終わりました。今日は、夏季休業前の集会を体育館で行い、私から全校生徒に次のような話をしました。

まず、今日で4月のスタートから4ヶ月近くが過ぎ、ほぼ1年間の3分の1を経過したことになることを話し、4月の始業式にこの体育館で「一枚の紙」の話をしたことを覚えているか尋ねました。

始業式で話した一枚の紙の話とはこんな話です。たとえば、紙を一枚この壇上に置いても見えはしないし、誰も気づきはしない。今はたった一枚の吹けば飛ぶような紙だけれど、今日も一枚、明日も一枚、毎日毎日そうして重ねていけば、やがてそこには圧倒的な存在感を持つ紙の束が現れる。みんなの毎日にも同じことがいえる。日々の経験の積み重ねがやがて大きな変化に結びついていくのだから。…という話でした。

あの日、この話で子供たちに伝えなかったことは、人は必ず変わる、ということでした。置かれた一枚の紙は、その存在すらわからないくらい薄いものです。でも、その一枚の紙は、少しずつ、確実に変化をもたらす力を持っています。

また、始業式の翌日に行われた入学式では、こんな話をしました。

『中学校は、大人になるための学校です。わがままを押さえ、我慢することを学んでください。苦手なことでもやらなければならない、ということを知ってください。そして、一人ではできないことも、学級や学年で取り組めばかけがえのないすばらしい感動を味わえる、ということを知ってください。感動して、涙が自然にあふれてくるような、そんな体験をみんなで味わうために、ともにがんばりましょう。』

あのとき、私は新入生に対してだけでなく、2・3年生に対しても「こんな学校にしよう！」と呼びかけていたつもりでした。あれから今日まで様々な行事や出来事があり、子供たちはそれぞれ、いろいろなことを経験し、悩み、乗り越えてきました。ひとつ乗り越えるたびに、子供たちの中には「一枚の紙」が積み重ねられて、今では自分自身の中に、かなりの存在感を持つ何かができつつあるのではないかと思います。人は人とふれあうことで成長しますし、様々な体験を通して新しい発見をしていきます。クラスや部活動の仲間とともに、たくさんの体験をしてきたこの4ヶ月間は、それぞれの子供たちにとって、貴重な4ヶ月間だったと思います。うまくいったことも、うまくいかなかったことも含めて、どんな体験も自分の中に積み重ねられた「一枚の紙」となって、必ずこの先につながっていくはずです。すべてを自分自身の財産として大切に、この先に進んでいってほしいと思っています。

さて、いよいよ明日から夏季休業期間に入ります。総体も後半戦となり、先週すでに試合を終えた部もあれば、これから大会初日を迎える部、先週からの試合が続く部もあります。また、この後は、サマーコンサートやコンクール、発表会や公演等もあります。そして、おそらく3年生は、これまでの人生の中で一番勉強に取り組む夏になることでしょう。この夏、すべての子供たちが新たな「一枚の紙」を積み重ねられるよう、心から願っています。